

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



トラックの荷台に乗り、カササギの森の上流域、麻地溝にむかう GEN スタディツアー参加者

### Contents

- 丹羽大使大同訪問 ..... P 2
- 緑の地球環境センター、始動！ ..... P 4
- 2011 夏ツアー報告 ..... P 4

2011.9

141

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

# 丹羽大使大同訪問

7月22日の午後、在中国日本大使館の丹羽宇一郎特命全権大使の一行が大

同の私たちの協力プロジェクトを視察しました。山西省公式訪問のさいにわ

ざわざ立ち寄られたものです。

最初に私たちの協力拠点・緑の地球環境センターをみてもらいました。建設がはじまったばかりでゴった返していましたが、小さな民間団体の取り組みとしてはその規模の大きさに驚かれたようです。トウヒの大苗を記念植樹してもらいました。

そのあと外務省草の根無償資金協力の援助で



記念植樹をしたトウヒを前に（右から柴京雲大同市総工務局副主、丹羽大使、高見事務局長）

掘った大同県遇駕山村の井戸をみてもらい、2軒の農家で井戸を掘る以前と以後の生活のちがについて村人の話をききました。生活の根幹に直結する課題ですので、みなその喜びを率直に語りました。

大同県聚楽郷では、采涼山のマツの造林地をみてもらいました。日本と中国のそれぞれの技術を結合し、成功をかちとったことを紹介しました。

前中久行代表と高見邦雄事務局長が案内役を務めました。

その夜は、共産党大同市委員会の豊立祥書記との会見と宴会がありました。席上、豊書記は、同席した前中代表に、20年間にわたる緑の地球ネットワークの協力に繰り返し感謝の意を表しました。

（高見）

## 講演「現在の里山がかかえる問題と今後の対処」を聞いて

松井 浩（GEN会員）

7月4日、大阪市立総合生涯学習センターにて、森林総研関西支所の大住克博さんを講師に迎えてGREENなんでも勉強会「現在の里山がかかえる問題と今後の対処」を開催しました。里山問題に関心をもつ人たちなど、23人の参加がありました。

去る7月4日GREENなんでも勉強会にて、森林総合研究所関西支所大住克博氏の掲題の講演がありました。氏は長年里山について研究をしてこれ、里山の定義に始まり、その歴史と現状の問題点、保全運動の取り組みについて豊富な知識とデータに基づいたお話をうかがうことができました。中世の荘園から認められる里山は1600年～1900年に広がったが、維新後日本の工業化と共に利用価値を失い放置されて存続の危機にあります。地域社会には維持の動機も労働力もなく、財政支出で維持するには優先度、支出額共期待できません。氏は限られた支援とボランティアの「半」的システムによる社会実験的取り組みを提案しておられますが、山林の所有権の制約などから実現には困難が多いとのことでした。

現在日本の山林の問題は里山と人工

林です。いずれも人手により変えられた自然で、その維持管理に同じ困難を抱えています。議論されている解決策は正反対です。前者においては人手を加え続けてその多様性を維持しようというものであり、後者は自然の森に還そうという方向です。里山の多様な生態系の維持がいわれませんが、それは人為的にもたらされたものであり、その期間は高々400年程で太古の昔からの日本の山林の歴史の中ではほんの一瞬の変化にすぎません。自然に還すという選択もあるのではないのでしょうか？ かつて六甲山は禿山でした。神戸の集落の薪炭供給源だったためですが、維新後の工業化都市化によるエネルギー転換と植林によって森が回復しました。昆虫相では柴山の直翅目中心から鞘翅目、有翅目へ多様化、それに伴って鳥類、哺乳類も増えて、いまや

猪を食物連鎖の頂点とする豊かな自然が蘇りました。屋久島は幕府直轄領以来の高級木材供給地でしたが、安い外材に押され昭和30年代半ばに衰退し、今は放棄された集落や小学校が登山道のかたわらに残ります。生活を支えた里山は自然に還り、ふもとの羊歯類の多い亜熱帯樹林から頂上の針葉樹林まで、日本列島の五つの樹林帯全てを一山で体験できる稀有な自然が戻って、世界遺産に登録されるところとなりました。京都の薪炭と芝肥料供給地であった比叡山も100年ほど前は禿山で、その状態は昭和初期まで続きました。今や緑に覆われる五山の送り火は禿山文化の名残ともいわれます（京都精華大小椋教授植生史）。これらの所では植物園等の施設や登山道の維持をのぞき、森の管理は予算や労働力をかけず自然にゆだねられています。

戦国時代の終焉から江戸時代にかけて日本の人口は3倍の3000万人に増えたが、戦がなく所領、石高を増やせない諸藩は農地を開拓し、初めの100年だけでも米の生産は倍増、里山も明治政府が1897年に森林法を作るまで拡大した。今も国土の20%におよぶという。しかし当時新潟県が全国最大の人口ノ

## GEN への寄付がシンプルになります

緑化協力拠点の統廃合にともない、『みみずく基金』を終了します。また、『カササギの森』『新拠点建設カンパ』も新規募集は終了しています。それによって、大同の緑化への直接のご寄付は、『緑化基金』に一本化します。造林地の建設、協力拠点の維持運営など、必要に応じて振り分けさせていただきます。企業

等のご寄付で寄付先に特別のご希望がある場合はご相談ください。

GEN の運営を根本的に支える会員も随時募集中です。ここ数年会員は減少傾向にあり、新しい力を必要としています。ともに活動を支える仲間を、ぜひご紹介ください。



絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

\* \* \* \* \*

### 【GEN への寄付は税制上の

#### 優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは認定 NPO 法人です。その活動の透明性などを国税庁長官が認定した法人で、GEN は 2005 年 6 月から認定されています（期限は 2014 年 5 月 31 日）。

今年 7 月から、従来の所得控除だけでなく、税額控除を選択することができるようになりました。詳しくは GEN 事務所、または最寄りの税務署にお問い合わせください。

対象となるのは 2,000 円以上の寄付金で、確定申告が必要です。その他の要素が加味されることがありますので、税務署にご相談ください。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とはべつに、別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパと、会費のうち 1 口以上の部分・賛助会費から 12,000 円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

## いますぐできる GEN への協力

### ■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会員 12,000 円

家族会員（同居の家族 2 人目から）

6,000 円

学生会員 3,000 円

ジュニア会員（中学生以下）

1,000 円

団体会員 12,000 円

賛助会員 100,000 円

※会費には会報購読料が含まれています。

### ■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料 2,000 円。

### ■緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。GEN への寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。みなさんの応援をお願いします。

また、緑化基金、運営カンパの別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

\*緑化基金の 20% は事務管理費になります。

### ■絵はがき『黄土高原の花』をご利用ください

黄土高原の色あざやかな花ばなを絵はがきにしました。暑中見舞いに。

絵はがき『黄土高原の花』8 枚組・300 円（送料別途。5 セット以上送料無料）

### ■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

### ■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

### ■外国コイン・商品券などを集めています

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

### ■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連

✓を誇った程の農業人口は減り続け、いまや給与所得者の就業者に占める割合が 80% を超えている。このようななか社会コストをかけ、善意に頼るだけでは広大な里山の維持は難しい。自然にゆだねるのは合理的な帰着ではないかと考えます。地球環境が変化してい

る今、それでアシタカの落葉樹林やもののけ姫の照葉樹林に戻るわけではなく、里山の維持同様ノスタルジー感情によるものではありません。一方学術研究目的で予算をつけ、代表的条件の地数か所を選んで里山生態研究特区を設けてはどうでしょうか？



## 緑の地球環境センター、始動！

高見 邦雄（GEN 事務局長）



2010 年秋

私たちの新しい拠点、緑の地球環境センターがはっきりと姿を現してきました。4月に着工した管理棟は塗装を除いてほぼ完成しました。昨年秋までは伸び悩みのポプラの林、今年春には風砂の飛び交う一面の更地だったところが、その大半が緑に覆われています。専門家をはじめ、訪れた人たちは「よくやったものですね。すごい能力ですよ」と驚きを口にします。

なぜ、いきなり緑に？ 大同市が大規模な工業団地を造成し、産業の多角化をはかっていることを、以前に少し報告しました。場所は大同県の周土庄鎮、倍加造鎮で、その面積は3,700haもある広大なものです。その範囲に私たちの白登苗圃と果樹園がかかってしまいました。苗圃の大部分はとりあえず無事ですが、大きな道路で分断され、水も行き渡りませんし、いずれ時間の問題です。

損失を最低限に抑えることに目標を絞り、新しい環境センターへの移転統合を決めました。ブルドーザーによる整地、井戸掘り・配管などと並行して、苗木をピストン輸送し、移植しました。アンズ、トウヒ、トショウなど、樹高1m以上の苗だけでも2万本あり、マツの小苗などは数えることもできません。移植の適期はかぎられていますから、時間との競争です。スタッフは連



2011 年秋 管理棟中庭



2011 年春

日、朝7時には現場に立ち、暗くなるまで働きました。疲れと焦りのなかで、普段はみられない口論や衝突もありました。4月に派遣した私たちのツアーは、移植作業の最初の1日を担ったのです。

いま、それらの木々は青々と葉を広げています。枯れたものはほとんどみられません。空いた土地で、トウモロコシ、アワ、スイカ、ウリなどを栽培していますが、これまでにみたことがないくらいのいいです。思いのほか土の質はいいようですし、今年は雨にも恵まれました。大同事務所スタッフたちは、「以前の環境林センターよりずっとよくなります」と自信満々。これまでの経験と蓄積をすべて生かしているのです。7

月に訪れた丹羽宇一郎大使一行も、非常に高い評価を残してくれました。

敷地の一角に「生態植林見本園」と「有用植物見本園」（薬草を含む）を設置します。JICAの草の根技術協力事業のフォローアップで、霊丘の南天門自然植物園の縮小版を交通便利なここにつくろうというもの。前中久行代表の基本設計をもとに、今春から植物園で苗を育てていますが、それと並行してさまざまな方法で苗を集め、予定地に仮植えました。専門家2グループ、緑の地球ネットワーク、イオン・サントリーの労働組合、大阪市RR厚生会の各ツアーもそのために活躍しました。

現在も急ピッチで整備がつづいています。来春、私たちが訪れるころには、さらに充実したものになるにちがいありません。この過程をみてきた人が私

に「あなたたちはどうしていつも焼け太りなの」と言いました。



移植第1号のアンズ



春に移植したトウヒ 2011 年秋



春に移植したアンズ 2011 年秋

## 2011 夏ツアー報告

今年の夏は GEN ツアー他5つの団が大同を訪問し、緑化活動に参加しました。8/16～26の専門家派遣（8名）から始まり、8/20～26 GEN 夏スタディツアー（19名）、8/28～9/2 イオン・サントリー労働組合同ツアー（19名）、8/30～9/7 専門家派遣（10名）、9/8～12 大阪市 RR 厚生会（8名）と続けました。

GEN ツアーでは天鎮県で村の人と一緒に植樹をしたほか、『かささぎの森』での植物採集、新しくできた『緑の地球環境センター』の見学などをおこないました。今回は高校生や大学生など若いメンバーが多く参加し、にぎやかに活躍してくれました。

詳しくは次号でご紹介します。

## GEN 自然と親しむ会

比良・馬が瀬山で  
森づくり体験と  
楊梅の滝ハイキング

○日時：10月23日（日）10時から15時ごろまで

○場所：滋賀県比良山麓の馬が瀬山国有林ふれあいの森

○集合：10時 JR 湖西線「北小松」駅前

○指導：NPO 自然と緑

○作業内容：スギやヒノキの間伐、楊梅の滝まで軽ハイキングをしながら植物観察

○定員：20名

○参加費 700 円（保険料を含む、交通費は含まない）

○持ち物：昼食、飲み物、作業のできる服装・クツ、軍手、タオル、雨具

○申込み締め切り：17日までに GEN 事務所に電話、FAX、Eメールで。

ながいお付き合いをさせていただいている NPO 自然と緑が森づくりをすすめているふれあいの森で作業体験です。

それぞれの体力・経験にあわせてマンツーマンで間伐作業をていねいに指導していただきます。さらに体力のない人は見学でも結構です。

関心のある方、どなたでも参加できます。

昼過ぎからは楊梅の滝まで軽ハイキングに出かけます。お楽しみに。

問い合わせ、申込みをお待ちします。

## GEN 報告会

『中国黄土高原に育つ緑  
～豊かな森の  
再生をめざして～』

大同における GEN の緑化協力も 20 年となり、いくらか成果も見えるようになってきました。そんななかで協力拠点の移転統合があり、活動のこれからを考えてみる機会ともなりました。

ただやみくもに植えるのではなく、なにをどこにどう植えるのか、めざすべき森林の姿は果たしてどんなものなのか。その指針となるべき南天門自然植物園やカササギの森の近況、新しい拠点緑の地球環境センターの現状をまじえながら、お話ししていただきます。

ワーキングツアー参加者の体験発表も予定しています。

●日時：11月16日（水）18時30分～20時30分

●講師：前中久行（GEN 代表・元大阪府立大学大学院教授）

●場所：ひと・まち交流館京都（京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1（河原町五条下る東側）  
tel. 075-354-8719 fax. 075-354-8712  
市バス 4、17、205 系統「河原町正面」下車 京阪電車「清水五条」徒歩 8 分、地下鉄烏丸線「五条」徒歩 10 分  
URL <http://www.hitomachi-kyoto.jp>

●資料代：500 円

●定員：60 人

●問合せ・申込み：GEN 事務所まで



## 本の紹介

『写真ルポルタージュ 3.11 大震災・原発災害の記録』橋本紘二／農文協／1,400 円＋税

写真は時間を切り取る芸術といわれますが、津波の被害を写した橋本さん独特のモノクロームの写真のなかで、時間は凍り付いているようです。東日本大震災の翌日におきた長野県北部地震の写真もおさめられていますが、春を迎えたそれぞれの被災地で流れる時間はあきらかに異質です。「我ら相寄り村を成し」の言葉が印象に残ります。

『菌と世界の森林再生』小川真／築地書館／2,600 円＋税

GEN 顧問でもある小川先生が実践してこられた炭と菌根をつかった森林再生について書かれた本です。ロシア、アマゾン、ボルネオ、オーストラリア、そのフィールドは世界中にひろがっています。もちろん中国黄土高原も。

霊丘県南天門自然植物園の緑がすっかり濃くなりました。それだけで嬉しいことですが、そこでなにが起きつつあるのか、小川先生の記述を読むとわくわくしてきます。茂りはじめた木の下で、土壌の中で、ダイナミックな変化がはじまっているのです。

## 切手、ハガキ、コイン等の報告

2010 年 4 月から 2011 年 8 月まで、みなさんからの物品提供のご報告です。

未使用切手が 78,883 円。使用済み切手と外国コイン・紙幣を換金して 53,962 円。書き損じハガキを切手等に交換して 58,066 円。未使用カード類を換金して 111,700 円。合計 302,611 円となりました。ご協力ありがとうございました。

使用済み切手は 1kg600 円、外国コインは 1kg800 円で換金します。外国紙幣

は手数料を差し引いた価格となります。

イオンリテール労働組合は写真のようなステキなデザインの袋を準備して各地の組合員のみなさんが集めてくださってこんなにたくさん GEN 事務所に届きました。サントリー労働組合は使用済みハガキ等を集めていただいています。グンゼラブアース倶楽部は各支社、関連会社等と呼びかけて各地から GEN 事務所に使用済み切手を送っていただいています。その他多くの団体・個人のみなさんに、継続して取り組んでいただき、このようなまとまった



支援となりました。

家で眠っている昔の記念切手なども大歓迎です。

ひきつづき、よろしく願いいたします。

## 第4回「GEN-宇久須合宿」へのお誘い

西伊豆町宇久須で GEN が関東ブラン  
チのメンバーを主体に合宿を始めて  
3 回が経過しました。約 2a の休耕田を  
再生した GEN の圃場ではサツマイモと  
ヤーコンが元気に育っています。GEN  
関東ランチ宇久須宿舎にも、ほぼ 2  
週間おきに除草のために会員が訪れ、  
作業のかたわら吹き抜ける田舎の風の  
涼しさを堪能しています。

そんな日本の原風景ともいえる「田  
舎暮らし」を体験しながら、日本が抱  
える温暖化、食糧自給率の低下、少子  
高齢化、耕作放棄地の増加などの問題  
点を肌で感じて見直そうと 2011 年度秋  
の GEN-宇久須合宿を計画しました。

山仕事、海岸の見学、交流、農作業、  
炭焼き、そして山の幸と海の幸のごち  
そうなど、盛りだくさんなメニューを  
用意しています。収穫した農産物はお  
持ち帰りいただけます。「無農薬・有機・  
炭栽培」の安心・安全な農産物です。

【第4回 秋の宇久須合宿 参加者募集】

○内容：放置間伐材の切断と皮むき、  
GEN の畑のサツマイモとヤーコンの

収穫、無煙炭化器による炭焼、休耕  
田の管理、磯焼けした海岸の観察、  
焼き芋、イノシシ鍋、宇久須の不思議  
発見、講演会「宇久須とヤーコン」  
(予定)、宇久須の方々との交流会、  
その他、宇久須の海の幸や西伊豆や  
土肥の温泉も楽しめます。

○資格：どなたでも参加できます。子  
ども（保護者同伴）も歓迎。

○期間：2011 年 11 月 11 日（金）17 時  
頃集合～13 日（日）14 時ごろ解散

※現地集合・現地解散

※途中参加、途中離脱、前泊、後泊も  
可能

○場所：静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須  
(GEN 関東ランチ宇久須宿舎か民宿)

○費用（予定。変更の可能性あり）：  
結団式と懇親会：5,000 円（海鮮焼き「カ  
ネジョウ」を予定）

民宿利用：15,000 円（宿泊 2 泊・食費・  
保険料など）

GEN 関東ランチ宇久須宿舎利用：  
1,000 円 +  $\alpha$ （土曜夕食は自炊、貸し  
布団 3,000 円か寝袋持参）

交通費は自己負担。以下、東京から  
の交通手段の例です。

1) 高速バス（新宿～修善寺）+ 路線バ  
ス 約 7,800 円

2) JR 東海道線（東京～三島）+ 伊豆箱  
根鉄道 + 路線バス 約 8,800 円

3) 自家用車（東名沼津インターから車  
で 1 時間半）・駐車料金不要。

中部・関西方面からは、清水～土肥  
のフェリーを利用する方法もあります。

○申込み締め切り：2011 年 10 月 21 日  
(金)。定員 20 名。先着順。

○問合せ・申込み：美谷島克実  
E-mail: biyazima@tcn-catv.ne.jp FAX: 03-3942-1585

氏名（ふりがな）・性別・生年月日・  
住所・電話番号・メールアドレスをそ  
えてお申し込みください。

○現地事務所：藤原國雄 e-mail: wbs03014@mail.wbs.ne.jp

★宇久須プロジェクトは、新しい要素  
を加えながら、今後も展開する予定です。

◇ 2012 年合宿の予定 ◇

5 月 11 日（金）～13 日（日）

11 月 9 日（金）～11 日（日）

## 運営懇談会に ご参加ください

大同の開発にともなあって激動の年と  
なった GEN20 年目。これまでの成果を  
ふまえ、今後の方向性を、会員有志の  
みなさんで意見を出しながらいっしょ  
に考えましょう。GEN 会員の方なら、  
どなたでもご参加いただけます。事前  
に GEN 事務所までご連絡ください。

【大阪会場】

●日時：11 月 5 日（土）13 時 30 分～  
16 時ごろ

●場所：大阪市立総合生涯学習センター  
(大阪駅前第 2 ビル 5 階、JR「大阪」  
駅／「北新地」駅、各線「梅田」駅下車)

【東京会場】

●日時：11 月 19 日（土）15 時 30 分～  
18 時ごろ

●場所：立教大学池袋キャンパス 12 号  
館 2 階会議室

## GEN 関東ランチ月例会のご案内

10 月度月例会『退耕還林から 10 年を経  
て 陝北地方農村の変化と地域差（仮）』

●日時：10 月 1 日（土）15 時 18 時

●場所：学習院大学東洋文化研究所会  
議室（JR 山手線「目白」駅すぐ）

●講師：佐藤廉也さん（九州大学准教授）

●事前申込み不要・参加費無料

11 月度月例会

●日時：11 月 19 日（土）13 時 30 分～  
15 時

●場所：立教大学池袋キャンパス 12 号  
館 2 階会議室

●話題提供：高見邦雄 GEN 事務局長

●内容：大同での緑化協力活動最新情  
報など

月例会終了後、運営懇談会（18 時まで）  
となります。

また、運営懇談会終了後、懇親会を予  
定しています。懇親会参加希望者は 11

月 16 日までに上田 (ueda@rikkyo.ac.jp)  
までご連絡ください。メールが使えな  
い場合は、GEN 事務所まで電話・ファッ  
クスで。



黄土高原史話〈55〉

## 皇帝様は生き仏

このところ若い人のツアー参加が少ないようですが、今夏は高校生1名・大学生4名とか。必ずや貴重な体験となるでしょう。最終日には、たぶん雲崗石窟の見学も。

さて、その雲崗石窟。

大同の市街から西へ15キロほど、武州河北岸の武州山南麓断崖に、東西1キロにわたり穿たれた石窟寺院で、東側に1～4窟、中央に5～13窟、西側の東半に14～20窟、西半に21～53窟。ほかに多くの小窟もありますが、最初に開かれたのは16～20窟。北魏の第4代文成帝（在位452～465）のとき、高僧曇曜の提言により開創されたので、曇曜五窟と称される。

そもそも北魏は建国以来、国家主導で仏教を尊信。

初代道武帝は、398年のこと詔を下して、「国都に仏像を造り、寺院を建立せよ」と命じているが、これが平城（大同）における造寺・造像の始まりです。また高僧法果を招聘して、道人統（宗教全般をつかさどる機関の長）に任命。この法果、「帝は英明にして道を好む、すなわち当今の如来なり、沙門よろしく礼を尽せ」と、率先して道武帝を拝している。つまり皇帝は生き仏というわけだが、この考えこそ北魏仏教の特徴です。ちなみに、そのころ南朝の諸

谷口 義介（GEN会員）

国家では、僧侶が皇帝に敬礼の義務なし。

第3代太武帝は心底からの仏教信者ではなかったが、439年、西方の北涼を滅ぼすや、涼州（甘粛省武威）の民3万余家を平城に移す。その地はもともと「村々に寺塔あり」といわれるほど仏教が盛ん。すなわちシルクロード沿いの涼州で栄えた仏教文化を、ゴッソリ移植したというわけだ。

前回述べたごとく、太武帝は道教びいきに傾いて、446年に排仏を断行し、平城の寺院や塔は破壊されてしまいます。452年、帝が宦官寵愛に暗殺されたのは、見方によっては仏罰と申せましょう。

この宗愛を誅殺して即位したのが、上記の文成帝。太武帝の孫ですが、亡き父・太子晃（451年憂死）ゆずりの熱心な仏教信者。即位後さっそく仏教復興の詔勅を發布して、道人統にはカシ米尔出身の高僧師賢を任命する。師賢はもともと涼州にいたのだが、北魏が北涼を滅ぼしたおり、平城にやってきたという次第。454年、帝は先祖5帝の供養のため、高さ1丈6尺の釈迦立像5体を鑄せしめた。使った銅は25万斤とか。それぞれ5帝の姿になぞらえたものとされている。

460年、復仏に貢献した師賢が

亡くなると、つぎに沙門統（道人統を改称）に選ばれたのが、前出の曇曜にほかならない。じつは曇曜も涼州にいて北涼の高官たちから礼遇されていたのだが、太武帝による強制移民で平城に來住したらしい。彼は北魏仏教のさらなる復興に全力を注ぎ込む。その計画の一つが、武州塞（雲崗）に五大石仏を彫出することだった。

京城の西の武州塞に於て、山の石壁を鑿ち、五所を開窟し、仏像のおのおの一を鑄建す。

高き者は七十尺、次なるは六十尺。彫飾の奇偉なること、一世に冠たり。（『魏書』釈老志）

いわゆる曇曜五窟のうち、第16窟は仏立像で、4代目の文成帝を模している。初期造営の中断後、20年ほどして再開されたものらしい。第17窟は交脚菩薩像で、太武帝の太子晃（諡されて景穆帝）。第18窟は中尊仏立像で、2代目の明元帝。最大規模の第19窟は16.8メートルの主尊仏坐像で、初代道武帝。第20窟が中尊仏坐像（写真）で、3代目の太武帝がモデル、とか。



## 緑の地球ネットワーク創立20周年記念シンポジウム（東京）

緑の地球ネットワークを発足させ、中国大同での緑化協力をはじめたのは1992年1月でしたので、まもなく20年になります。それを記念して、来年そうそうに東京と北京で記念のシンポジウムを開催します。大阪と大同ではその1年後に開催します。

東京での開催予定がきまりましたので、お知らせします。

日時 2012年1月28日（土）午後1時30分～

会場 東大弥生講堂一条ホール（東京メトロ「東大前」駅）

●コーディネーター

▼上田 信さん（立教大学教授・GEN世話人）

●パネリスト

▼松井孝典さん（千葉工業大学惑星探査センター長、東大名誉教授）

専門の惑星物理学を基礎に人類の文明と人の生き方、環境問題などを壮大なスケールで説く。新日中友好21世紀委員会のメンバーとして環境問題の重要性を中国でも訴えつづけた。

▼桜井尚武さん（日本大学教授、元日本森林学会会長）

造林学が専門。大同のGENのプロジェクトにもなんども通い、植物等の調査を実施し、事業の方向と技術面での指導をおこなう。GEN顧問でもある。

▼高見邦雄（GEN事務局長）

発起人のひとりとして緑の地球ネットワークの創設に参加。1994年から事務局長。大同での緑化協力を担当し、毎年100日前後、現地に滞在している。

情報ひろば  
いっしょなかたち

国際森林年  
世界の熱帯林を守れ！  
温暖化防止を！

【Stop! 違法伐採・密輸材取引～だいじょうぶ?? ボルネオ島の「合法材」】

- 日時：9月24日（土）18時30分～21時
- 場所：大阪市中之島中央公会堂（地下鉄「淀屋橋」駅 tel. 06-6208-2002）
- 講師：三柴淳一氏（国際環境 NGO・FoEJapan 事務局長）、西岡良夫氏（ウータン）

【オランウータンを守れ！ 泥炭湿地の保全を】大阪集会

- 日時：10月16日（日）18時30分～21時
- 場所：ドーンセンター（地下鉄「天満橋」駅 tel. 06-6910-8500）
- 報告：Yoyok; Iwan Tri Cahyo Wibisono（ヨヨ）氏（Wetlands International Indonesia）、Basuki Budi Santoso（バスキ）氏（Friends of National Parks Foundation）

【オランウータンを守れ！ 泥炭湿地の保全を】京都集会

- 日時：10月17日（月）18時30分～21時

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- 場所：ひと・まち交流館京都（京阪電車「清水五条」駅徒歩南8分、地下鉄「五条」駅10分 tel. 075-354-8711）
- 報告：大阪集会に同じ
- 主催：ウータン・森と生活を考える会（tel. 06-6372-1561 URL <http://hutang.jimdo.com>）
- 申込み：fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp
- 参加費：無料

世界森林アクション・フェア

日本・世界で森林の保全・再生に取り組む NGO が参加します。

- 日時：10月8日（土）13時～21時
- 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟第1会議室（小田急線「参宮橋」駅徒歩7分）
- 参加費：1,000円（会場、資料、ドリンク代含む）
- 定員：180名
- 問合せ・申込み：世界森林アクション・フェア事務局（NICE 内 〒161-0022 東京都新宿区新宿 2-1-14-401 tel. 03-3358-7140 e-mail: LM-out@nice1.gr.jp）までメールか

郵送で、氏名・メールアドレス・参加する時間を書いてお送りください。

- 締め切り：10月6日（先着順）
- 内容：
  - 13時～14:30 オープニング・参加団体のプレゼンテーション
  - 14:45～16:40 ブース訪問
  - 16:40～17時 第1部クロージング
  - 17時～18時 休憩・夕食
  - 18時～ 交流会
- 招待 NGO
  - IIWC（インドネシア）／OISCA International（フィリピン）／SJV（ベトナム）／Green Asia Network（韓国）／Earth Corps（アメリカ）／吉里吉里国（岩手県）／マイルストーン22（北海道）等



2011・国際森林年